

牛に引かれこ

善光寺参り

第十回

はなゆほう

花遊歩

NUPRIが目指す賑わいの街づくりの一環として
和装の女性たちによる「花遊歩」を始めてから足掛け13年——
今回は、ながの花フェスタ「善光寺花回廊」開催中の5月4日に
TOiGOから善光寺山門までのコースを歩いた後
善光寺のお膝元ならではの楽しみ方を満喫しました。

■開催日 2023年5月4日(木・祝)

■花遊歩参加者:72人

■イベント運営 NPO法人NUPRI長野都市経営研究所





[9:00/受付開始] 趣向を凝らした花の回廊を歩いて来た着物姿の女性が新田町トーゴ広場に設けられたNUPRI「花遊歩」テントにて次々と受付を済ませます。

[9:30/出発式→出発] 鷲沢幸一NUPRI副理事長挨拶に続いて荻原健司長野市長および若林健太衆議院議員から祝辞を受けた後、鈴木隆治実行委員長が「当イベントに欠かせない牛を率いてきてくれた村山義治さん(千曲市)が引退されるため、『花遊歩』は今回が最後となります」と発表し、驚きとともに村山さんへ感謝の拍手が湧き起こりました。



行列がスタート。参加者72人を先導するのは「杏花」の出産が早まり代役・初登板した「やつき」。新型コロナウイルス規制が解除されたとあって、連休の歩道は久しぶりに市民や善光寺詣りの観光客で賑わいを見せ、マスク姿も個人の判断に

任せられたためチラホラです。「何の行列だろう?」「先のほうに牛がいるよ!」「牛に引かれて善光寺詣り。だ!」「何ソレ?(故事を説明される)」「いい時に来れたね」等々が聞かれます。

表参道の緩やかな上り坂を歩くうち気温も予想外に上昇したため、羽織りものを脱ぐ参加者多し。セントラルスクエア地点にて休憩・水分補給し再び歩き始めます。

[10:45/善光寺山門下に到着] 「花遊歩」一行の善光寺到着を受け、善光寺林明晋寺務総長より答礼をいただきました。参加者、牛&牛スタッフさん、お疲れ様でした。牛とのツーショット希望者は善光寺東緑地に移動後、大本願へ。



[11:15/大本願] ①鷹司誓榮副住職(代理)よりご垂示。鷹司敦子(お上人様御母堂)コレクション「大正ロマンの絵封筒」紹介 ②組紐作家・山岸由香里さんの講演「組紐と帯締コーディネート」



[12:00/宿坊・淵之坊] ①昼食 蕨、クルミなど地元の素材を使った数々の精進料理に舌鼓を打ちました。



②淵之坊若麻績享則住職による「善光寺縁起」絵解き 善光寺の始まり～故事、牛に引かれて、～去る4月のびんずる様盗難……丁々発止の語り～



同聴き入ったことでした。③「善光寺びんずる市」の紹介 ④第11回「花遊歩」終了挨拶。

[14:00/解散]

これ以降は城山公園で開かれている「びんずる市」に向かうもよし、善光寺参詣するもよし、自由解散しました。



今回は初めて海外の方が参加。スウェーデンからの千曲市交換留学生は「楽しかった!」、日本文化大好きなベトナム女性は茶道の先生とともに「アオザイもTPOによってルールがあるところが着物と似ている」「それぞれの国に伝わる民族衣装を守り続けたいですね」と話してくれました。最年少は幼稚園児の時から参加してくれている中学1年生でした。参加者の感想を一部紹介します。

- 誘われて初参加。10年前に自分で買った着物一式をようやく着れました。
 - 道の真ん中を歩くと善光寺さんがだんだん近づき、昔の人の善光寺詣りを体験できた気分。
 - 毎回、着物や小物を何にしようかワクワク。今回は「花遊歩」というタイトルにちなみ、紅花染の紬にバラ柄の帯を合わせました。
 - 知らない者同士が着物話を交わせる「花遊歩」は着物好きにとって嬉しいイベントでした。観光にも一役立てたかな(笑)
- 平成23年(2011年)9月「わいがやサロン」にて井上裕子さん(信毎編集委員/当時)が提案してくださった「長野で着物にまつわるイベントを」から実現に至った「花遊歩」——「形を変えて継続してほしい」等、終了を惜しむ声が多く聞かれました。

NUPRI NPO法人 長野都市経営研究所
Nagano Urban Policy Research Institute

〒380-0834 長野市大字鶴賀間御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp e-mail:nupri@nupri.or.jp